

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079500148
法人名	有限会社 グループホームひまわり
事業所名	有限会社 グループホームひまわり
所在地	福岡県田川郡糸田町 4113-1 (電話) 0947-26-2622

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年11月8日	評価確定日	平成20年12月5日

【情報提供項目より】(平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	15 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9.2

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日 933円				

(4) 利用者の概要(10 月 20 日現在)

登録人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	8	要介護2	3		
要介護3	5	要介護4			
要介護5		要支援2	2		
年齢	平均 79 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町緑ヶ丘病院 田中医院 諫山医院(皮膚科・歯科) 藤下医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりは平成鉄道駅前のスーパーを改造したホームであるが、開設から6年が経過し、トイレを広くしたり、利用者が生活しやすいように今も改造中である。居間・食堂を囲む背丈の壁には入居者と一緒で作成した花模様のステンドグラス風のもので飾られ、玄関にはお城やお御輿などの入居者の作品を展示し、各居室のドアには手作りのネームプレートがかけられ、手作りの暖かさが感じられる環境で入居者は安心して生活している。また、毎年恒例の1泊旅行に参加することを目標に、入居者はリハビリに励んだりしている。この旅行は今まで家族の参加はあったが、今後近隣の方にも呼びかけ、家族会の発足や地域活動に活かす意向である。代表者は視覚障害者であるが、入居者の日常生活への要望は「即実行」で取り組まれ、入居者や家族、職員から信頼や共感を得ている。管理者は常勤の職員が増え、研修会参加で入居者との日頃の関わりに意欲が出てきていることから、職員により良い支援につなげるように話している。又、地域の文化祭に入居者の作品を展示するため、準備段階から入居者と参加し、地域の方々との交流をしている。そして定期的に新聞「ふれあい」を発行しながら、地域のグループホームのネットワーク作りや地域の拠点になればと地域の方に介護の情報や支援ができることを事あるごとに伝えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に沿って、運営推進会議録の整備や権利擁護に関する研修会に参加している。整備したパンフレットで家族等に制度を説明し、活用できるよう取り組んでいる。職員の年間研修計画の作成や介護計画を入居者や家族に説明し了承をいただいたり、通院記録の整備や避難訓練を実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や内容を勉強会で把握し、全職員で自己評価に取り組み、改善シートを作成し改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領の整備はないが、2ヶ月毎に市担当者や民生委員、家族等の参加で運営推進会議が開催され、サービス提供状況や行事等を報告し、議事録を整備し、内容はふれあい新聞に記載し家族等に配布している。地域区長に参加の呼びかけがされているが、参加がない。市担当者に介護保険制度やホーム運営について問い合わせをしたり、地域事業所とのネットワーク・連携について相談している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	年4回、入居者の暮らしぶりの写真などを掲載した新聞「ふれあい」を発行したり、行政の健康診断受診を支援している。定期的に来訪される家族にはその都度暮らしぶりや健康状態を報告し、他の家族には手紙や電話などで随時報告している。金銭管理は金銭出納帳が整備され毎月家族に説明し、家族の確認印がある。職員の退職なども報告している。成年後見制度等のパンフレットを整備し、入居時に利用者・家族に説明し、利用契約書に署名をもらうなどで、権利擁護制度が活用できるように取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	念願の自治会には加入できていないが、入居者と一緒に地域文化祭の会場準備に行き、団体や地域の方と交流したり、毎年敬老会に参加したりしている。また、玄関先に置いた新聞「ふれあい」で行事の参加の呼びかけをしたり、相談やお世話ができることなど話している。子供110番の協力やホームの外にベンチを設置しているので、子供が立ち寄りしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の心構え社訓を玄関の見易い位置に掲示している。家庭的な我が家作りや生活の場がホーム内にとどまらず、昔馴染みの場所や人との交流等で支えあえる事を理念としている。職員は理念を自分の言葉で語れる。	○	地域との関わりに重点を置いて運営されているので、地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下・・・」を運営規程や契約書・パンフレットなどに謳って頂きたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を朝・夕のミーティング、会議等で職員と共有している。理念を社訓に活かし、社訓を日常生活に役立てたり地域の中で入居者の意向に沿うように取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	念願の自治会には加入できていないが、入居者と一緒に地域文化祭の会場準備に行き、団体や地域の方と交流したり、毎年敬老会に参加したりしている。また、玄関先に置いた新聞「ふれあい」で行事参加の呼びかけをしたり、相談やお世話ができることなど話している。子供110番の協力やホームの外にベンチを設置しているので、子供が立ち寄りしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や内容を勉強会で把握し、全職員で自己評価に取り組み、改善シートを作成し改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領の整備はないが、2ヶ月毎に市担当者や民生委員、家族等の参加で運営推進会議が開催され、サービス提供状況や行事等を報告し、議事録を整備し、内容はふれあい新聞に掲載し家族等に配布している。地域区長に参加の呼びかけがされているが、参加がない。	○	運営推進会議の目的等を記載した実施要領の整備や地域区長等が参加されるように工夫をお願いしたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に介護保険制度やホーム運営について問い合わせをしたり、地域事業所とのネットワーク・連携について相談している。介護教室等の受諾も働きかけていく予定である。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度の研修会に参加し、会議などで職員に伝達し制度の理解に努められている。パンフレットを整備し、入居時に利用者・家族に説明し、利用契約書に署名をもらうなどで、権利擁護制度が活用できるように取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、入居者の暮らしぶりの写真などを掲載した新聞「ふれあい」を発行したり、行政の健康診断受診を支援している。定期的に来訪される家族にはその都度暮らしぶりや健康状態を報告し、他の家族には手紙や電話などで随時報告している。金銭管理は金銭出納帳が整備され毎月家族に説明し、家族の確認印がある。職員の退職なども報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所及び行政機関の意見苦情窓口が明記されている。入居者からの意見で、他人に見られぬように意見箱をホームの角に設置している。家族会を発足したいと食事会を企画されたり、今年の1泊旅行には3人の家族の方の参加があったが、家族会の発足には至らなかった。家族から頂いた意見要望は即実施している。	○	家族会の発足に努力されているので、今後も旅行・食事会等を通じて家族会の発足を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は個々の関わりの積み重ねによる関係性を大事にしており、常勤の職員が増えたことを喜んでいる。ユニット間の異動も利用者との関係を考慮し自然な形で、入居者や職員が共に気持ちよく過ごせるかに配慮して実施している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	特に採用基準はないが、正直である事と、この仕事に向いているのかを重視している。雇用契約書や就業規則が整備され、定期健康診断も実施している。訪問介護員や介護福祉士の資格習得の費用を負担したり、お祝い金を出すなど、職員が自信が持てるように支援している。休憩室が確保されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	日常生活支援事業についての講習会等に参加し、伝達講習を行っている。その都度法人代表、管理者は人権に関する話をしているが、人権教育・啓発活動のパンフレットの整備がない。運営規程に身体拘束に関する記載をしているが、虐待防止に関する記載やマニュアルの整備がない。	○	さらなる人権教育・啓発活動のために運営規程や入居契約書等に虐待防止の明記やマニュアルの整備、人権教育・啓発活動のパンフレットの整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、職員の段階に応じて研修参加を支援したり、運営者や管理者が認知症や場面に応じたケアについて話しをしている。夜間の学校に通えるように支援している職員もいる。職員は運営者・管理者に悩みごとなど相談して、アドバイスを受けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者から管理業務などの支援を受けているが、地域のグループホームのネットワーク作りを市担当者に働きかけている。現在職員の勉強会に向けて取り組みを行っている。	○	町内でグループホーム協議会を発足され、同業者の協働で地域にサービスを提供されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始することは避けている。家族の希望での入居が多いが、職員2名で訪問し入居者から話を必ず聞いている。そして、見学に来てもらい、入居者・家族と一緒に過ごし体験してもらったり、又病院入院中でも外泊で体験入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常会話の中で昔の話を聞くなど、日常生活での会話を大切にして人生の先輩として接している。職員は利用者が手を合わせてお礼を伝えられ、やさしさとやりがいを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から入居者の希望・意向の把握に努め、週間予定表に記載している。困難な場合は入居者本位に検討したり家族より外泊・外出・訪問時の様子を聞いているが、生活暦・職歴が記録されていない。	○	把握された意向は週間予定表に見やすく記載したり、生活暦・職歴の記録をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握した入居者の希望や思いに基づき、協力医療機関の医師・看護師・職員と情報交換を行い、会議で検討し介護計画を作成している。入居者や家族に介護計画を説明し、了承を得ているが、家族の意向が記録されていない介護計画がある。	○	介護計画書に入居者や家族の意向や希望の記載が求められます。サービス提供状況のモニタリングや評価を担当者会議で検討し、より具体的で個別性のある介護計画作成を期待します。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の変化や気付き、意見や希望に沿って、定期的または随時介護計画を見直している。見直した介護計画は入居者及び家族等に説明し、了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年1回、遠方にある入居者の墓参りに同行している。病院の手術の立会いや付き添いに家族の要請で対応する事もある。月1回、主治医の指示でホームでマッサージを受けてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診の支援や協力医療機関受診も支援している。通院記録を整備し、家族の訪問時や電話で随時伝えている。訪問看護師との連携は連絡ノートを整備し、入居者の申し送りを確実にしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方針・同意書を整備し、家族等に説明している。主治医とも早い段階で話し合い、緊急の場合は主治医の指示で対応をしているが、状況に応じた具体的なマニュアルがない。	○	訪問看護による入居者の心身状況の把握や医療連携状況は入居者毎に異なると思われるので、状況に応じた入居者・家族の意向の確認や具体的な対応を織り込んだ終末期マニュアルの整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程を整備し個人情報利用目的を明記しているが、掲示していない。個人情報や介護記録は鍵の掛かる所に保管している。排泄時等のプライバシーの配慮について研修はしているが、研修実施録を整備していない。服務規程に職員の守秘義務明記している。	○	個人情報の保護に関する規程や利用目的の事業所内の掲示や研修実施録の整備をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に支援する入浴や排泄支援の機会に、入居者の思いや希望を聞くようにしている。各居室には好きな番組が見れるようにテレビが設置され、いろいろな音楽が楽しめるように有線放送を取り入れている。入居者に衣類を選んでもらったり、いきつけの美容・理容室に行けるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み要望に応じた献立を考え、能力に応じてもやしの根とり、芋剥き等の調理のしたごしらえや、配膳・下膳を支援している。職員2名が伴食をしている。時には外食を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴を支援しているが、入浴拒否には声掛けを工夫したり、午後8時まで入浴ができるようにしている。体調が悪い時には清拭したり、洗髪の希望があれば洗面台で対応している。町の温泉にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ、園芸、カラオケ、工作、うちわの張替えなど楽しみごと等を支援している。今年も入居者と一緒にロープで作品を制作し、文化祭に出品している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画である恒例の1泊旅行に今年は家族が3人参加している。日ごろは近所の散歩や春には土手に土筆採りに行ったり、信仰されている教会の送迎をしている。又、町の温泉や商店への買い物にも同行している。1人で外出できる入居者には外出カードを持参してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない暮らしの重要性を理解し、玄関ドアなどはセンサー(鳥の鳴き声)を設置している。外出傾向のある入居者には探知機を持ってもらっている。近隣や警察には理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、避難経路を掲示している。半年に1回避難訓練を実施し、職員は役割を理解している。地域の方に訓練の見学や協力を検討している。スプリンクラーや消火器が設置され、お茶・ボカリ・ラーメン・卓上コンロなどの備蓄が整備されている。	○	地域の方に消火訓練の呼びかけや避難訓練の協力を検討されているので、運営推進会議で話し合いをされてはいいかでしょうか。また備蓄台帳の整備で備蓄の定期的な入れ替えをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事は1800Kcalで、入居者毎の食事・水分摂取量を記録している。食事制限のある場合は肉を減らし野菜をおおくするなどの工夫で、見た目には同じ食事を食べてもっている。又、咀嚼や嚥下状態に合わせキザミなどにして、できるだけ自分で食べられるようにストロー付きコップの利用など工夫している。毎月体重測定をしており、最近体重が増加傾向にあるため、おやつを控えてもっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に四季の花が飾られ、お城やお御輿などの入居者の作品を展示している。共用空間はソファや椅子が置かれ、入居者はお気に入りの場所でテレビを見たり音楽を聴いている。ベッドも設置されマッサージを受けたりしている。ブラインドで日差しを調整し、エアコンで空調を調整している。トイレにはタイマー式芳香剤が設置され、風呂や廊下は消臭剤が置かれている。廊下にも椅子やソファが置かれ、喫煙場所もある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには入居者の希望に応じた手作りのネームプレートを掛けている。畳敷きの居室は、窓の上に光採りの窓が設けてあるので明るく、馴染みの家具や仏壇が持ち込まれている。ご夫婦の居室にはコタツが置かれ、生活必需品に囲まれ、まさに家庭と同じ状況で生活されている。		